

下付き文字の処理の改良

Maple 17 では、以下の点で下付き文字が変更されました。			
タイプ	キー入力 Maple 17	キー入力 従来のリ リース	例
リテラル下付き文字 2D 表現: a_b a_b [式] パレット: a_n	a_b	a [Ctrl]+ [Shift]+ $_b$	$x_{\max} := 5 :$ $x_{\min} := 1 :$ $x_{\max} + x_{\min}$ 6
テーブル/行列/ベ クトルの参照 2D 表現 #1: $a[b]$ a_b 2D representation #2: a_b a_b [式] パレット: a_n	$a [b]$ a [Ctrl]+[Shift] $+_ b$	$a [b]$ a_b	$result_1 := 11.1 :$ $result_2 := 13.7 :$ $result_3 := 8.0 :$ $result_4 := 11.9 :$ $add(result_p, i = 1$ $..4)$ 44.7
下線文字を含む変 数 2D 表現: a_b a_b	a_b	$a /_ b$	$a_b := 1 :$ $b_c := 2 :$ $a_b + b_c$ 3

Maple 17 では、下線文字およびリテラル下付き文字を操作しやすくするための新しいツールと規則が導入されました。

Maple の数学的タイプセッティングでは、下付き文字に対して 2 種類の異なる意味がサポートされています。"インデックス" 下付き文字は、配列やベクトルの要素を参照する文字表現で、下付き文字は参照先の特定の要素を表します。"リテラル" 下付き文字は、変数名そのものの一部であり、いかなる種類のインデックスとしても解釈されません。リテラル下付き文字を含む変数は、アトミック変数と呼ばれます。

▼ リテラル下付き文字

規則により、変数名において連続する 2 つの下線の後ろに続くものはすべてリテラル下付き文字を表します。

> a_b

a_b (1.1.1)

たとえば、テキスト入力 ("1-D") で a_b と表される変数名は、標準 Math ("2-D") では 'a' に下付き文字 'b' が付いた変数名として表現されます。ただし、'b' はいかなる種類のインデックスとしても解釈されません。従来のリリースでは、このような変数を 1-D 表記で入力すると、`#msub(mi("a"),mi("b"))` のようになります。

デフォルトでは、Maple はアトミック変数を別の色でハイライトします。これにより、ワークシートを確認する際に、インデックスの下付き文字とリテラルの下付き文字を区別しやすくなります。この表示は Maple のスタイル管理ツールを使用して修正することができます。また、[表示] > [アトミック変数] メニューを使用してオンとオフを切り替えることもできます。

▼ 下線の使用

2-D モードで下線を含む名前を入力することが簡単になりました。Maple の従来のリリースでは、式の中に下線を表示するには、下線の前にバックslashを挿入する必要がありました。Maple 17 では、1-D モードと同じように下線を入力することができます。

この変更により、2-D Math を使用する際のキーボードショートカットが一部変更されました。

- 下線を入力するには、キーボードで下線キーを入力します。

> a_b

a_b (1.2.1)

- リテラル下付き文字を作成するには、基本名の後に下線を 2 つ入力し、続けて下付き文字を入力します。たとえば、'a'、'_'、'_'、'b' の順に入力します。

> a_b

a_b (1.2.2)

- インデックス化した下付き文字を作成するには、Ctrl + Shift + 下線 (Mac OS X では Command + Shift + 下線) を使用するか、下付き文字を角括弧で囲みます。

> $a[b]$

a_b

(1.2.3)

▼ 下線入力時のデフォルト動作の変更

下線を入力するときのデフォルトの動作を変更して以前の Maple リリースの動作に戻したい場合は、以下の手順を実行します。

- 1.[ツール] メニューを開きます。
- 2.[オプション] を選択します。
- 3.[インターフェイス] タブを選択します。
- 4.[アンダースコア入力] の隣にあるドロップダウンリストから、[下付き文字の挿入] オプションを選択します。
- 5.[全体に適用] ボタンをクリックします。

この設定を従来のリリースの動作に戻した場合、アトミック変数を作成するには、変数を右クリックして [2-D Math] > [変換] > [アトミック識別子] を選択して手動でアトミック識別子に変換するか、[変数] パレットからアトミック変数を追加する必要があることに注意してください。

▼ 参照

[インデックス変数、配列、行列、ベクトルのインデックス化、Maple Worksheet のショートカットキー](#)